

代理店業界を代表する 魅力的な組織へ邁進

日本代協

2025年度通常総会を開催



小田島会長

総会審議に先立ち挨拶した小田島会長は冒頭、代協の活動について「地域において安全教育や命の大切さを伝える出前授業、そして代理店の意識を高め積極的な参加を促す施策など、保険代理店の役割や価値を社会に伝える素晴らしい取組みが各地で行われている」と述べ、各地で事業推進している代協会員に対して謝意を示した。そのうえで会員に向けて小田島会長は「代協がこれからも保険代理店業界を代表する魅力的な組織として邁進するために協力してもらいたい」と呼びかけた。

続いて、来賓として金融庁監督局の下井善博保険課長が挨拶。損保業界で昨今、不適切事案が相次いでいることから金融庁では保険業法の改正と監督指針の改正に取り組みむことになったと述べ、「制度の見直しや監督上の対応を通じて、損害保険業界を巡る課題として発生した不適切事案の再発防止が図られることが重要だ」と指摘した。

総会審議に入り、第一号議案の2024年度事業報告案承認の件について説明にあたった日本代協の金澤亨専務理事は、行政や損保協会、保険会社各社、業界内団体等との情報交換を重ね、金融



下井保険課長

との意見交換会の継続開催などを行ったこと、また先ごろ行われた有識者会議や金融審議会保険ワーキング・グループ、損保協会主催の代理店業務品質評価に関する第三者検討会に日本代協がオブザーバーとして参加した実績を挙げたうえで「業界における日本代協の存在感を増すことができたと総括した。仲間づくり推進(会員増強)については、今年度末の会員代理店数が1万0683店だったことや338店の入会目標に対して461店と目標を36%上回ったことなどを報告した。

一方、退会は549店が入会を88店上回る結果となったが、合併や統合等のやむを得ない退会に対する理由不明等の任意の退会の割合が28・8%と3割を切るなど、昨年度(31・3%)と比較して抑制できていることをポイントとして挙げた。

総会閉会時には、監事に就任した錦野弁護士が挨拶。損害保険と保険代理店の意義について「保険があるからビジネスができるし保険があるから自動車にも乗れる。損害保険というのは人に勇気を与える存在であり仕組みだと思っている。この仕組みにおいて顧客と接する保険代理店の皆さんにはプロフェッショナルズを感じている」と話した。

各地での取組みに謝意 代理店の役割・価値を伝える

日本代協(小田島綾子会長)は6月13日、東京・千代田区の損保会館で2025年度通常総会を開催した。総会では2024年度事業報告案承認の件と貸借対照表・正味財産増減計算書・財産目録承認の件が審議され、いずれも承認可決された。また、今年3月14日付で弁護士錦野裕宗氏が日本代協監事に就任したことが報告された。



(損保版)

第1～4月曜日発行
発行所 新日本保険新聞社
大阪市西区靱本町1丁目5-15
(郵便番号550-0004)
電話 (06) 6225-0550 (代表)
FAX (06) 6225-0551 (専用)
購読料 1か月2420円
(消費税、送料込み)
©新日本保険新聞社 2025

78th
Anniversary
since 1947

創業昭和22年

保険・共済業界と
共に歩んで78年